2022年7月31日発行　／　生活協同組合コープみらい

平和新聞

16 平和と公正をすべての人に

作成・編集者

ウクライナの子どもたちの生活

2月24日にウクライナとロシアのせんそうが始まり5か月つづいている!!
日本は1949～1964年、ユニセフからおうえんをもらい、ウクライナもユニセフからおうえんをもらいました。
ウクライナの子どもたちは親からはなれ、地下鉄の中ですごしている。しかも地下鉄の中でべんきょうしている子どもがいて、その子がユリアちゃん。さんすうのべんきょうをしている。
ウクライナには"地雷"っていって地面にうめてばくはっさせるもので、それがウクライナにいっぱいうめてある。
ウクライナの子どもの数は、国内で300万人。日本の子どもの数より、せんぜんすくない。

せんそうのはなし、しくみ

日本のせんそうとしくみ

1945年8/6歴史上はじめて原子ばくだんをつかう。
原ばくのひがいは？
① 熱線
「熱さは3000～4000°の熱さでひふがめくれておおやけど、物にあたるとものすごくいたい。
② ばく風
「アフリカゾウトン（アフリカ象5頭分）
③ 放射線
「1キロ以内の人はほとんど死亡

せんそうはしてはいけない

日本は、広島県と長崎県に原子ばくだんを落とされ多くの人が亡くなりました。それにおおくのひがいがありました。
原子ばくだんを落とされ子どもたちのお父さんお母さんが亡くなって、一人になった子どもがいるから、せんそうはしてはいけない。

今、ウクライナとロシアのせんそうをやっています。子どものお父さんがへいたいになって多くの人が亡くなっています。
そしてもっとはげしくなるともっと多くの人がなくなります。
なので、ぜったいに、せんそうはしてはいけません